

R18
For Adult Only

蒲公英騎士の 墮落



旅人と、行動を共にしていたエウルアの二人が消息を絶ったとの報告を受けたジン・グンヒルドは、二人が調査に赴くと告げていた付近に存在するヒルチャールの集落に単身乗り込んだ。

この界限のヒルチャールならば物の数ではない——その筈だった。

集落の中央に建てられた木造のドームに踏み込む。

苦も無く数体を斬り伏せ、奥へ進んだところで囚われていた二人を発見した。

「旅人 エウルア……今助ける！」

その眼前を阻むように現れたのは、これまでとは明らかに異なる雰囲気を漂わせたヒルチャール達だった。

（なんだ、この威圧感は……）

この界限に出没していたヒルチャールとは違う。

自分と同等、それ以上かもしれない力を持っているのではないか。

（しかし、ここで私が負けるわけにはいかない）

ジンは凜として自らの怯えを捨て、渾身の力を込めて剣を突き出した。

次の瞬間、ジンはヒルチャールの棍棒によって突きごと払い除けられ、宙を飛んだ。



弱い
「kuchabakuchab」
弱い

「くっ……」

「このビルチャール達、強すぎる……ッ」

無様に足で踏みつけられ、武器も折られ

圧倒的な力の差を見せつけられてジンは敗北した。

「いつも仲間さま
「vatomo」

「私を一体どうするつもりだ！ 一匹を……旅人とエウルアを返せ！」
敗北したにも関わらず、ジンは行方不明になっている二人の為に
必死に気を張り上げて、賢明に叫んだ。

「いつも仲間さま
「vatomo」

Lv. 0

Lv. 5

羽交い締めにされたジンの眼前に、三体のヒルチャールが現れる。
シャーマンの両脇に鎖に繋がれた二体のヒルチャールが立っていた。

「この音を押し続けろ」
「Bukunuvanzidoo」

Lv. 90

「お嬢 空いた」
「Bukaouru-ouru」

「お嬢 空いた」
「Bukaouru-ouru」

二体の女性形のヒルチャール。見知った髪、ヒルチャール語を話す声。
そう、ジンが救おうとしていた二人の成れの果てだった。

「やめるんだ二人共！ お願いだ…目を覚ましてくれ！」

「うう…そんな…旅人に、エウリア…なのか」

身動きできない獲物を前にしてエウルアは躊躇なく襲いかかる。
剥き出しの形の良い胸が歪むほどの力を込めた愛撫。

「うわああッ！ やめてくれ！」

「痛ッ！ 抜いてー 抜いてくれッ!!」

ヒルチャール化して生えたのであるう醜悪な一物を、エウルアは容赦なくジンの秘部へと突き刺した。

「気持ちいい
Upas sada!!」

「気持ちいい
Upas sada!!」

容赦無く犯され続けるジン。
ヒルチャールとなったエウルアの性欲は底なしだった。

後ろをエウルアに攻め続けられ、そして旅人だったヒルチャールが
ジンの前へと立つ。ジンの形の良い唇がこじ開けられた。
醜悪な一物が勢いよく回内へとねじ込まれると、汗と精液の
耐え難い臭気が口内に満ちてジンの脳を揺さぶる。

「むぐぐーんんーっ」
「臭いッ 気持ち悪いッ」

「もう……やめ……んあ！ ああッ」

「お願いだ……ッ エウルア、目を、目を覚ましてくれッ」

二体のヒルチャールに前後から玩具のように弄ばれ続けるジン。
ただの欲望のはけ回であり、肉袋と化していた。
もはやなすがまま、されるがままの状態となり、思考さえままならない。

「Dada~ Dada~」

「Dada~」

「んぐっんむらッ！んんッ！」

（駄目だ……頭が、ポーツと……）

ジンにとって、永遠とも思える時間に感じられた。
かつての仲間による醜悪な行為。
西風騎士団代理団長の姿はもはや無く、ただの肉袋と化した女と成り果てる。

旅人とエウリアは性欲を満足させるとジンから離れていく。
それを見計らって、ヒルチャールのシャーマンはジンの眼前へと進み出た。

「うっ あ、あああああああッ！

あがああああーッ！！」

お前も仲間になる

「Yami-tomorrow」

「うう……何を、するつもりだ……」

杖を軽く揺らしながら、何かを詠唱する。

それが合図のようにジンの下腹部に紋章が浮かび上がり始めた。

ジンの肌は、濃緑色へと変わっていく。
相手の意図は明らかだった。旅人やエウルアと
同様にジンもヒルチャールへと変えようとしていた。

そして、人間としての死刑宣告のように、
仮面が突き出された。

「い、嫌だ……ッ」

「ヒルチャールになんてなりたく無いッ」

Lv. 5

(私が……。消えていくッ 誰が助けてくれッ)

「うがああああーッ!! Gaaaaaa!!」

仮面が装着され、ジンの意識はヒルチャールへと塗り替えられていく。
もはやここに人間は一人も存在しなかった。

強力なヒルチャールに敗北し、鎖に繋がれた雷電將軍。
虜囚の身となった彼女に、異質なヒルチャールが襲いかかった。

「upa! upa!」

「不覚……」

Lv. 10

Lv. 10

Lv. 10

このヒルチャール達が、モンドで消息を絶った西風騎士団の
成れの果てとは彼女には知りようもなかった。

「ぶ、無礼者ッ」

「抜きなさいッ」

「抜いてえ！」

「あぐっ いやあああッ！」

Lv. 80

「私にこのような事をして、ただでは……えっ？」

鎖に繋がれたまま、雷電將軍は秘処に突き刺されたまま後ろからジンだったヒルチャールによって抱き抱えられた。ヒルチャールのシャーマンが詠唱し、杖がゆっくりと振られる。

08.47

「あっ、ああアアッ!!!
(身体が、熱いッ)」

相手の意図を、雷電將軍はようやく悟った。
この者は、自分も仲間にしようとしていた、と……。
自分を犯しているこのヒルチャールも、こんな末路を辿ったということ。
下腹部に浮かび上がる紋章。
そして、突き出された仮面を見て確信へと変わる

「ヒッ……ッ……嫌ッ」

か弱い少女のように怯え、顔を背けようとするが
無造作に髪を掴まれ、仮面へと向き直される。

「Geeeeeeeeeeeee……!!」

「ひき……ッ!!
あ、ああああああああッ」

Lv. 5

一匹のヒルチャールが、サルのように自慰を繰り返していた。

股間に生えた二物を必死にしごき続けるそれはかつて雷電將軍と呼ばれていたヒルチャール。

その仮面の下では無様な顔で涎を垂れ流し続けていた……。

「upa upaaaaa!」



ゲスト：銀鈴様
ジン 人格排泄





あとがき

どうもお久しぶりでございます。前回から2年以上経ってしまいました。
ようやくコロナも落ち着き、復活という運びとなりました。
本来であれば、こちらのセラーヴィーナス本の予定でした。
が、原神は今の内にやっておかないと将来的に妄想が続いているか不安
でした……。
やるなら今だ、と……難航でしたが。
キャラがエロいですよね。その中でもジンさんと雷電将軍がお気に入りです。

セラムンに関しては、きっといつでもイケるという安心感がありますが、リメイクも
一段落してしまい、次はセラムン出せるかどうか不安です。
オリジナルの本も出したいのですが……。
年々、オナニー回数が減っている今日このごろ。
冬コミは作品未定ですが、出たいと思いますので、その折は宜しくお願い致します。

<奥付>

作品名：蒲公英騎士の墮落
発行：墮落事故調査委員会
代表者：シューミット
発行日：2023年8月13日
印刷：PICO(プリンティングイン株式会社)
メール：sch-mit@goo.jp
pixivID：sch-mit

Presented by
墮落事故調査委員会



18歳未満の方の購入は固く禁止します